

令和元年度

事業所名： グループホーム ぽっかぽか

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370500597		
法人名	株式会社 グランツ		
事業所名	グループホーム ぽっかぽか		
所在地	〒025-0072 岩手県花巻市四日町二丁目一番一号		
自己評価作成日	令和1年6月30日	評価結果市町村受理日	令和元年12月6日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

行事(花見やクリスマス会等)を計画、実行することにより入居されている方々に四季を感じていただけるよう、個々の誕生日にはご本人様からの聞き取りやご家族様からの聞き取り、生活歴から想像することで希望等をお伺い、または想像した上で担当職員が希望を叶えることの出来るよう計画、実行し楽しみのある施設生活を過ごして頂けるよう日々努めている。また、スタッフ間の連携やコミュニケーションも良く図れており、働きやすい職場の雰囲気となっている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kajikensaku.mhw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan:true&amp;JiyosyoCd=0370500597-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kajikensaku.mhw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan:true&amp;JiyosyoCd=0370500597-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、会社の社員寮を買い取り、グループホーム用に改修した建物で運営開始から16年が経過している。7居室が2階にあり、介護度4以上の利用者が5人いることから、階段に昇降機を設置し、上り下りをしている。有料老人ホーム、通所介護施設、居宅介護支援事業所、福祉用具貸与事業所が同一敷地内に設置され、複合型の介護サービス拠点として、介護の必要度に応じたサービスの提供が可能となっている。開始時からの理念「願いを叶える」を実現すべく、誕生日には担当職員が知恵を絞って本人の希望に沿った企画を立て、マンツーマンで対応し、笑顔を引き出す支援を実践している。介護度の高い利用者が増えており、職員への負担が増えて来ているが、管理者を先頭に職員は笑顔を決やらず、本人本位のケアサービスに努めている。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和1年8月1日

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会】

令和元年度

事業所名：グループホーム ぽっかぽか

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	以前から理念としている「願いを叶える」を目標に、ご利用者様個々に担当を決め、誕生日にはご利用者様の希望を伺い実践している。月例ミーティング時にどのようなことを行うか、それに伴うフォローはどうすれば良いのかを話し合い実践している。	利用者の意思や能力、生活スタイルに合ったケアを実践しており、一人一人の利用者に担当を決め、ミーティングで話し合いながら、運営法人の理念である「願いを叶える」を実践するため、本人の思いや希望の実現に努めている。最近では、誕生日を迎えた2人の希望で地域の保育園訪問による園児交流を企画、実施した。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃は散歩や買い物などの際に地域の方々と挨拶を交わしている。また、一斉清掃や資源回収、地域の総会、地域のイベントに参加し交流を図っている	地区の清掃や資源回収に協力し、文化祭にも、カレンダーなどを作成し、参加している。地域のボランティア団体に声をかけ、踊りのグループなどに訪問してもらっている。地域に出掛けての交流は、減少傾向にあり、改めて自治会や地域の方々との交流を模索している。	
3		○事業所を力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学や運営推進会議の際に内部でのサービスの特徴、認知症の基本知識やケアについてお伝えしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月毎に開催しており、活動報告や実績報告、事故報告等を行い地域の代表からはそれに関する意見や地域の行事等の情報を得ている。	地域からは、近隣の2地区の区長さん、民生委員さんに委員をお願いしている。運営や行事などホームでの生活の様子が報告され、質疑、意見交換を行っている。利用者、家族の出席はない。区長さんの協力を得ながら地域との繋がりを再構築したいとしている。	家族の行事参加に合わせて会議を開催するなど、家族の出席の機会を増やすように工夫することが期待される。また、可能な限り、一般職員にも出席してもらい、現場の立場で意見交換に加わってもらえることが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議のご案内をして参加をいただいて意見交換をしている。運営上の疑問点はその都度ご担当者に確認させていただいている。	運営推進会議で地域包括支援センターの担当者から適切な助言を得ている。情報交換や制度上の手続き等、担当課との協力、連携はスムーズに行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず職員同士連携を図り声掛けや見守りにより行動を抑制することの無いようケアに取り組んでいる。また、定期的に身体拘束に関しての研修会を開き、理解を深め実践している。	運営母体の法人が身体拘束適正化のための指針を策定している。ホームでは、この指針に基づき、身体拘束や虐待防止が発生しないよう相互理解を深めている。重度化が進んでおり、ホームとしてのマニュアルの見直しも検討中である。身体拘束防止に関する研修を全職員参加で年2回開催し、月例ミーティングの際にも、スピーチロックの勉強会等を継続的に実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	就労時及び定期的に虐待防止に関して研修会を開き、定期的に職員に聞き取りを行い、見過ごされることが無いよう注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今までに該当なる方がいないこともあり、学ぶ機会を設けていない。必要時には事前にミーティングにて学ぶ機会を設け活用できるようにしていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前にサービス内容、重要事項、料金等の説明を十分に行い、納得して頂いた上で契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会にご家族様を案内し参加を促している。ご都合が合えばお越しいただき、意見や要望をお伺いし、それらを運営に反映している。他、事業所内に苦情相談窓口を設け、また外部の苦情相談窓口についてもホーム内に掲示している。	家族会の名前で行事への招待や運営推進会議への参加をお願いしているが、出席は多くない。月1回は家族の来訪があり、毎週末してくれる家族もあり、その際、要望等を確認している。担当職員が、毎月、健康状態や生活の様子をケアプランに添え書きして送付するなど、利用者個々の家族との情報交換は円滑に行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月例ミーティングや日頃より職員から出た意見や提案を管理者で解決できることは早めに回答し、代表者でなければならぬ意見に関しては管理者会議を通して代表者に伝え、対応をお願いしている。	管理者は、介護職も兼務しており、毎月の月例ミーティングや日常の業務の中で職員からの意見や要望を確認している。また、法人が制度化している職能評価の個人面談の際にも、職員の悩みや今後の目標を把握するよう努めている。ホームで対応、処理出来ない課題等は、系列事業所管理者会議で協議したうえで、法人本部に持ち上げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	悩みや意見、提案を話しやすい環境をつくるために日頃管理者と職員とのコミュニケーションを図っている。また随時個人面談を行ったり、職能評価を実施し、個人評価・管理者評価・運営者評価を明らかにして個々が次なる目標を設定できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	就労時のオリエンテーション、毎月のミーティングにて内部研修(勉強会)を行うことで個々のスキルアップを目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会や花巻市ケアサービス事業所連絡協議会に加入し、勉強会等があれば行ける時には参加し、その際に同業者との情報交換の場とさせていただいている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様からの申し込みが主でその際にご本人様の意向を伺うことは困難だが、自宅や入院先にアセスメントへ出向きご本人様の不安や願い、心身の状態等を把握する機会を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が相談に来た際に困っていることや不安なこと、求めていることなどをよく伺うよう努め、そのことに関してどのように支援できるか等、お話しさせていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	満床により直ぐに入居できない場合にも、相談内容が他の居宅介護サービス利用等によっても解決可能、または介護負担が軽減できる問題であれば当法人内の担当者にも同席や相談を求めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の出来ることを見出し、共に食事や家事仕事を行い、会話の中で教えたり教えられたり支え合う関係を築き、生活の場という雰囲気づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際には日頃撮っている写真をお見せしながら普段の生活を詳しくお伝えしたり、家族会でご利用者様とご家族様が交流できる場を設けたりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様からの了承を得た上で、今までの馴染みの方からの面会、電話等を受け入れている。また、馴染みの場所や思い出のある場所へお連れすることもある。	知人、友人の面会は、家族に対し予め差し障りが無いか、関係等を確認したうえで受け入れている。ドライブの際には、実家の周辺を始め、思い出や馴染みのある場所を巡るよう努めている。意思疎通が難しくなっている利用者への支援が手薄になってきており、家族の協力で知人等、馴染みの人の来訪の機会を多くつくりたいとしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや外出によりご利用者様同士が交流できる機会を設けている他、普段も職員が間に入り会話等できるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	止むを得ず退居となる場合には、他施設や他介護サービスの情報提供を行ったり、契約終了後に認定調査の立ち合いをしたりとフォローしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴から想像したり、ご利用者様やご家族様と会話等により希望を把握するよう努めている。また、月例ミーティングでそれらを踏まえた介護方針の検討をしている。	半数程度の方が自分の思いや希望を表現できる。食べ物や衣類等の日用品についての希望が多い。また、家族の協力を得て、これまでの生活歴から好きな暮らし方や趣味を把握し、ケアプランに生かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントで生活歴やサービス利用の経過などをご家族様、ご利用者様から伺っている。また了承を得て他事業所からもサービス利用時の状況を聞き、把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録用紙に一日の様子を記入し、一週間ごとに見ることができ、連絡ノートには通院結果や身体の変化等記入し勤務に入る前は必ず目を通すようにしている。また、月例ミーティングにて一ヶ月の様子を振り返ることで把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング表を活用し、月例ミーティングで全職員の意見も取り入れた上でサービス計画書を作成している。それを毎月ご家族様へ送付し意見を伺っている。	利用開始に当たってのアセスメントに基づき作成したケアプランについて、概ね1か月程度をかけて検証し、必要に応じ直ちに見直している。毎月、職員全員によるモニタリングにより、プランと現状に食い違いが生じていないか確認しながら、3か月毎に見直しを行っている。ケアプランはモニタリング結果も含め、毎月、家族に送付している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の様子の記録のほか、連絡ノートを活用し、職員は勤務に入る前に必ず目を通し情報の共有を図っている。また、月例ミーティングで振り返りながら情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	お墓参りや外食など、家族で外出できるよう支援することも可能であり、ご家族様がホームに宿泊することもできる。また、ご家族様の負担軽減のため、通院は原則事業所対応としている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には区長・民生委員にお越しいたき、地域資源についての情報をいただいている。また、地域で行われる行事への参加(文化祭時、作品を出品)、地域のお店や公園への外出なども行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本、入居前からのかかりつけの病院を継続している。変更時にはご利用者様やご家族様、主治医との話し合いの場を持ち、理由を十分に説明し了承を得た上で変更している。	利用開始前からのかかりつけ医に継続通院している人が多く、職員が同行している。特に症状等に変化がない時は、毎月ケアプランを送付する際に併せて報告している。非常勤の看護職員が週1回健康チェックを行うとともに、適切な受診が出来るようかかりつけ医との連携に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当事業所の看護職員が日常的に健康管理に努めているほか、適宜かかりつけの病院の医師、看護師に相談し適切な指示をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	定期的に入院先に見舞ったり、電話連絡にて経過の把握を行っている。その都度担当医、看護師と情報交換している。また、退院許可のあった際にはご利用者様、ご家族様の意向も踏まえつつ極力早く退院できるよう調整している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の段階で重度化した場合における意向を伺っている。実際に重度化が見込まれる方のご家族様、主治医と話し合いを行いながら看取りの出来る施設との連絡調整、情報交換、相談や提供を行い転居されたケースがあった。	重度化については、食事が取れなくなったり、医療を必要としない限りは介護すること、看取りについては、他施設への紹介等の協力、支援を行うことで、利用開始時に利用者、家族に説明している。今後の看取り実施に向けては、協力医等による医療連携体制の確保や職員の体制に課題があり、法人本部と協議している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応マニュアルを作成し、全職員が内容を把握するよう努め、緊急時に備えている他、定期的に見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震対応マニュアルを作成し全職員が内容を把握するように努めているほか、定期的に避難訓練を実施している。地域の方達に見学に来ていただいたこともあったが、参加を促すまで進んでおらず今後の課題である。	年2回定期的に消防署立ち合いで火災避難訓練を実施している。訓練には、運営推進会議のメンバーや近隣の方に参加いただいたこともあったが最近ではなく、呼びかけが不十分としている。浸水区域に指定されていることから、ホーム独自で設定している避難場所までの経路の確認や課題を整理し、水害にも備えている。昨年の台風による避難指示の際も的確に対応できた。災害用の発電機等の備品を揃えるとともに、非常食品の備蓄も行っている。	2階の居室が多いが、上り下りは昇降機敷設の階段1カ所のみであり、階段を使えない場合の避難方法や避難経路について、消防署の指導、助言を得ながら明確にし、繰り返しミニ避難訓練を行うことが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	訪室の際、トイレやお風呂を利用する際等、日常的なケアにはご利用者様のプライバシーに配慮している。また、配慮が足りない時にはスタッフ同士声掛けをする等、意識の向上に努めている。	一人一人のプライバシーを大切にしながら、トイレ、入浴等の支援や居室の出入りに気を配っているが、トイレでの介助中にホールの様子を見るためにドアを大開きにしたままとか、「でた？」など、配慮に欠ける声かけになってしまうことがあるとの職員の反省もあり、職員同士で話し合い、お互い自戒している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様から困っていることや不安なこと、求めていることなどを聞き取れるよう個人に合わせゆっくり会話が出来る時間を設けている。また、押しつけにならずご利用者様が選択できるような問いかけを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や外出の希望があればなるべく当日、もしくは近日中にお連れするよう心掛けている。レクや外出には無理強いしないようお誘いしている。健康状態を維持するために規則正しい生活を基本としてはいるが夜更かしや寝坊にも対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪や洗顔後の化粧水等鏡の前で出来る限りご自分でしていただくよう支援している。また、ご希望があれば入居前からの行きつけの理、美容院へもお連れしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設駐車場内にある畑で野菜栽培、収穫をしたり、皮むきなど一緒に行い食事した時の楽しみに繋げているが、現在、食事は業者からの取り寄せとなっているため以前に比べると一緒に食事の準備などの機会は少なくなっている。	調理員等の調理を担当する職員が不足し、昨年からは、3食とも、ご飯、みそ汁以外の副食は外部委託により賄っている。自家栽培の野菜類をみそ汁の具にしたり、一品加えたりしている。利用者の重度化が進んでおり、以前に比べお手伝いをしてくれる人が減ってきている。敬老の日のお寿司やお花見の弁当など行事の際に、食事に変化をつけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	配慮が必要なご利用者様については適量を摂取していただけるよう声掛けや見守り、介助を行っている。また、必要時には水分摂取量や食事摂取量の記録を残している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、もしくは就寝前に一人ひとりの状況に応じた口腔ケアを行っている。必要に応じ適宜歯科受診をし、義歯や口腔内衛生当、口腔の状態を良好に保つよう努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握を行うとともに、定期的に声掛け、誘導することによるべくトイレで排泄していただけるよう支援している他、ご利用者様の力を活用して排泄出来るよう手順の声掛けをしている。	日中は、リハビリパンツにパットを使用し、排泄パターンに合わせた誘導により全員がトイレで排泄している。夜は、おむつを使用したり、パット交換により安眠第一の支援を行っている。現状を少しでも改善できるよう介助に力を入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量や排便の有無や量等も記入し必要時には下剤にて調整を行ったり乳酸菌飲料を提供し便秘の予防や改善に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に合わせた支援をしている	定期的に入浴を勧めながらもお断りされる方、時間帯の希望のある方にはそれに沿う形となるよう支援している。また、ゆず湯で季節感を味わったり入浴剤等も使用し楽しめるよう配慮している。	3日に1回は入浴出来るようにしている。脱衣、洗身、着衣など、自分でやれるところまで頑張ってもらっているが、全体的に介助の度合いが増してきている。マンツーマンの対応でおしゃべりを楽しみながら入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中活動的に過ごしていただくことで昼夜逆転しないよう努めている。また、夜間は室内を適切な温度に管理し、夜間不安を訴えられる方には安心して頂けるよう暖かい飲み物を一緒に飲みながらお話を傾聴する等努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の一覧表を設置している。服薬の確認、介助の際には十分に注意するよう、また薬の危険度の意識を高めるために定期的に月例ミーティングにて話し合っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事仕事を生き甲斐としている方には家事仕事を、畑作業を生き甲斐としている方には畑作業を提供できるよう取り組んでいる。また、生活歴から想像したり、本人から意向を伺うことで気分転換できる方法を常に模索している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	常にイベントの情報収集に努め、可能な限りお誘いし外出している。また、ご要望がある場合には日時等調整しなるべく外出できるよう支援している他、四季を感じる事が出来る場所(桜、紅葉等)へ外出したり、外食にお連れしたりしている。	外出できる利用者は、15分程度近くの公園まで出かけている。職員が靴下や洋服の買い物に付き合うこともある。系列事業所のリフト車やスロープ車を利用し、お花見や紅葉狩りなど季節のドライブを皆で楽しんでいる。重度化が進む傾向にあるが、出来るだけ外出の機会を作るよう努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事務所にてお小遣いをお預かりし管理している。ご希望があれば所持することは可能だが、認知症のため紛失の恐れもあるため多額は所持しないようお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からの了承を得た上で、今までの馴染みの方からの手紙や面会、電話等を受け入れている。毎年ご家族様宛の年賀状を出すための支援や手紙の返事を書けるよう支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間に季節を感じていただけるようクリスマスツリーや水木団子、七夕飾り等を飾り付ける他、匂いや温度にも配慮している。車の出入りも少ない場所にあるため不快な音も少なく居心地の良い空間となっている。	食堂兼ホールには、利用者個々の介護の必要性や相性などから、2人用や4人用のテーブルが分散して配置されており、利用者はそれぞれの居場所できつろいでいる。季節に合わせた飾り付けをしており、訪問時は七夕の短冊などが飾られていた。社員寮をリニューアルして事業所としていたことから、ホールも廊下も決して広くはないが、コンパクトで暖かな雰囲気共用スペースになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの他にもソファを設置し、ご希望により一人で過ごしたり、仲の良いご利用者様同士で過ごせるような場所を確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用の際には日頃から使い慣れた馴染みの調度品を持参してもらおうと話している。居室での時間を有意義に過ごしていただくために沢山持参されている方もいるが、居室に籠ることなく皆が過ごしている場所で過ごして欲しいという願いから極力荷物は少なくされる方が多い。	居室は広く、エアコン、クローゼット、収納棚等が設置されている。ベッド、寝具類は殆どの方がレンタルを利用している。収納スペースが多くあり、居室内は整理整頓され、すっきりしている。収納ケース、テレビ、テーブル、椅子等、自宅から持ち込んでいる人もいる。家族写真等を飾り、落ち着いてくつろぐことが出来る居室になっている。日中は共用のホールで過ごしている人が多い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室や玄関、階段にはスロープや手すりを設置し、ベッドには介助バーを取り付け安全の確保と自立の促進に努めている。また、出来る限り転倒の原因となるものを取り除くよう配慮している。		